

## トリックスターの織りなすもの

去る5月14日(金)に、文化学研究所(ペリフェリア)創設記念シンポジウムが開催されました。これは、図書館関係者の方々の特別なご配慮のもとに札幌大学図書館第一閲覧室において、催されました。

眩いばかりの緑に包まれた非日常的な空間でのシンポジウムは、「トリックスターとしての詩人たち」の織りなす創造的パフォーマンスに満たされました。そこで、このシンポジウムに迎えたゲストの方々の著作から3冊を紹介したいと思います。

まずは、ルイス・ハイドさんの『ギフト・エロスの交易』より。富を蓄えるものという商業主義の深く浸透した今日、わたしたちは富を蓄えず贈与していくものとする「ギフト社会」の存在意義を忘れがちです。労働も芸術も豊かな人生を創造するためのギフト(贈り物)と位置づけるハイドさんは、商業主義に流されない「ギフト精神の交易」が、芸術をはじめ人生や社会にいかに重要な役割を説いています。その声にわたしたちは、物質的に豊かな社会と言われるなかでの生き方を振り返り、愛と創造に恵まれるアートな生き様に惹きつけられるでしょう。

そして、芸術的インスピレーションを得ることができるとして、木本圭子さんの『Imaginary・Numbers』を次に。数式を基にしたコンピュータ・プログラムによって描きだされるビジュアルは、最先端技術を駆使した芸術の世界ですが、そこに描きだされ



高良勉著  
フィリピン詩集『サンバギータ』  
(思潮社 1999.2)

木本圭子著  
『Imaginary・Numbers』  
(工作社 2003.6)

ルイス・ハイド著  
井上美砂子・林ひろみ訳  
『ギフト エロスの交易』  
(法政大学出版会 2002.2)

るその抽象的な軌跡は、結晶? 水の波紋? 風の軌跡? 音の波動? と想像が膨らみたらずんでしまいます。

視覚的インスピレーションを得たあとは、言語によるインスピレーションを。高良勉さんの詩集『サンバギータ』。「日本語」、「琉球弁」、「フィリピン語」、フィリピンに属する地域の「方言」と多彩な言語によって、情熱的で直接的な紡ぎあいによって生み出されることば。その世界は、高良さんの出会ったフィリピンの生活者への愛、娘への愛、母への愛、故郷への愛に溢れています。きっと愛に満ちたことばに触れながら地球を回る旅人の気分になれることでしょう。南国の風、人々の笑顔に出会いながら。

周縁にて創造されていく新しい文化に触れるなら、「トリックスター」の織りなすものを手にとってすごしてみるのもひとつかと…。(文化学部講師 瀧元誠樹)

## スターティング・ウィズ — 願いましては —

福山静久志著 (フーコー 2000.5)

みなさんは「そろばん」に競技大会があることをご存知でしょうか? おそらく検定試験の存在は知っていても、競技大会が存在することをご存知の方の方が少ないのではないのでしょうか。競技大会は検定試験(検定試験の問題を使う競技大会もありますが違う問題を使う大会の方が多いです)よりも短い時間(多くは問題数はそのまま制限時間を半分)で早く正確に計算しなくてはなりません。速さと正確さ、さらに精神力の強さが求められるスポーツよりも過酷な競技だと私自身は思っています。ただ残念なことにスポーツのように「見せる」という要素が少ないためにただ見学しても途中経過もわからずつまらないものとなっており、現在は競技大会の見学もほとんど関係者だけのものとなっていますし、個人総合競技の最中は写真撮影等も禁止されていて見学者にとっては動きが全くなく退屈な時間となってしまっているのが現状です。そのためか、どうしても子供のするもの、マイ



ナーなものとして捉えられがちですが、短い制限時間の中でまず自分自身が問題と戦い、その結果に対して順位がつくという意味では誰かと対戦することが多いスポーツよりも自分の実力が正直に出るシビアなそしてとても奥の深い極めることが難しい世界です。その競技の世界を表現した数少ない本がこの本なのですが、読上算の初めの「願いましては」を英語読上算では「Starting with」と表現します。本文中では英語読上算のシーンもあります。圧巻は全大阪珠算競技大会のシーン。私も